

令和3年度 佐賀大学2次試験後期日程 (数学問題)

理工・農学部 令和3年3月12日

● 理工学部は, [1] ~ [4] 数I・II・III・A・B (120分)

● 農学部は, [1] ~ [3], [5] 数I・II・A・B (120分)

[1] さいころを何回か投げて, 出た目の最大値を得点とする. このとき, 次の問に答えよ.

- (1) 3回投げたとき, 得点が4以上になる確率を求めよ.
- (2) 3回投げたとき, 得点が4になる確率を求めよ.
- (3) 3回投げたときの得点が4以上であったとき, もう1回さいころを投げて, 得点が1以上増える確率を求めよ.

[2] 次の問に答えよ.

- (1) 実数 x, y が $2x + y = 1$ をみたすとき, $2x^2 + y^2$ の最小値とそのときの x, y の値を求めよ.
- (2) 実数 x, y が $2x^2 + y^2 = 1$ をみたすとき, $2x + y$ の最大値とそのときの x, y の値を求めよ.
- (3) 実数 x, y が $2x^2 + y^2 = 1$ をみたすとき, xy の最大値とそのときの x, y の値を求めよ.

[3] a を定数とする.

$$y = \cos \theta + a \cos 2\theta + \cos 3\theta$$

について, 次の問に答えよ.

- (1) $t = \cos \theta$ とするとき, $\cos 2\theta$ と $\cos 3\theta$ を t を用いて表せ. また, y を t の関数として表せ.
- (2) (1) の t に対して, $t = \frac{1}{2}$ で y が極値をとるとき, a の値を求めよ.
- (3) (2) の a に対して, $\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \pi$ の範囲における y の最大値と最小値を求めよ.

4 関数

$$f(x) = \frac{x^2}{e^x - x}$$

$$g(x) = (2 - x)e^x - x$$

について、次の問に答えよ。

- (1) すべての実数 x に対して、不等式

$$(1 - x)e^x \leq 1$$

が成り立つことを示せ。また、等号が成り立つときの x の値を求めよ。

- (2) (1) を用いて、方程式 $g(x) = 0$ が実数解をただ一つもつことを示せ。また、その実数解を α とおくと、 $1 < \alpha < 2$ であることを示せ。
- (3) α を (2) で定めた実数とする。このとき、関数 $f(x)$ の極大値を α の分数式で表せ。

- 5** O を原点とする平面上に 3 点 A, B, C がある。 $\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{b} = \vec{OB}$ とおく。 $|\vec{a}| = 3$, $|\vec{b}| = 2$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 5$ とし、直線 AB と直線 OC は垂直であるとする。このとき、次の問に答えよ。

- (1) 実数 s, t を用いて $\vec{OC} = s\vec{a} + t\vec{b}$ と表すとき、 t を s を用いて表せ。
- (2) 線分 OA の中点を M とする。3 点 M, B, C が同一直線上にあるとき、 \vec{OC} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。
- (3) (2) において、直線 AB と直線 OC の交点を N とするとき、線分 AB と線分 BN の長さの比 $AB : BN$ を求めよ。

解答例

1 (1) 3回とも得点が3以下の確率は $\left(\frac{3}{6}\right)^3 = \frac{1}{8}$

求める確率は、この余事象の確率であるから

$$1 - \frac{1}{8} = \frac{7}{8}$$

(2) 3回とも得点が4以下の確率は $\left(\frac{4}{6}\right)^3$

3回とも得点が3以下の確率は $\left(\frac{3}{6}\right)^3$

よって、求める確率は $\left(\frac{4}{6}\right)^3 - \left(\frac{3}{6}\right)^3 = \frac{37}{216}$

- (3) (i) 3回投げたときの得点が4であり、もう1回投げた得点が5以上の確率は、(2)の結果を用いて

$$\frac{37}{216} \times \frac{2}{6} = \frac{74}{1296}$$

- (ii) 3回投げたときの得点が5であり、もう1回投げた得点が6の確率は、(i)と同様にして

$$\left\{ \left(\frac{5}{6}\right)^3 - \left(\frac{4}{6}\right)^3 \right\} \times \frac{1}{6} = \frac{61}{1296}$$

- (i), (ii) および(1)の結果から、求める条件付き確率は

$$\frac{\frac{74}{1296} + \frac{61}{1296}}{\frac{7}{8}} = \frac{5}{42}$$

2 (1) $2x + y = 1$ より, $y = 1 - 2x$ であるから

$$2x^2 + y^2 = 2x^2 + (1 - 2x)^2 = 6x^2 - 4x + 1 = 6\left(x - \frac{1}{3}\right)^2 + \frac{1}{3}$$

よって, $x = \frac{1}{3}$, $y = \frac{1}{3}$ のとき, 最小値 $\frac{1}{3}$ をとる.

別解 \vec{u} , \vec{v} について, $|\vec{u}|^2|\vec{v}|^2 \geq (\vec{u} \cdot \vec{v})^2$ を利用する (等号は $\vec{u} // \vec{v}$ のとき)

2つのベクトル $\vec{u} = (\sqrt{2}, 1)$, $\vec{v} = (\sqrt{2}x, y)$ について

$$(2+1)(2x^2 + y^2) \geq (2x + y)^2 = 1 \quad \text{ゆえに} \quad 2x^2 + y^2 \geq \frac{1}{3}$$

等号が成立するとき $\sqrt{2} : 1 = \sqrt{2}x : y$ すなわち $x = y = \frac{1}{3}$

(2) 2つのベクトル $\vec{u} = (\sqrt{2}, 1)$, $\vec{v} = (\sqrt{2}x, y)$ について

$$(2+1)(2x^2 + y^2) \geq (2x + y)^2 \quad \text{ゆえに} \quad 3 \geq (2x + y)^2$$

したがって $-\sqrt{3} \leq 2x + y \leq \sqrt{3}$

等号が成立するとき $\sqrt{2} : 1 = \sqrt{2}x : y$ すなわち $x = y = \pm \frac{1}{\sqrt{3}}$

よって $x = y = \frac{1}{\sqrt{3}}$ のとき, 最大値 $\sqrt{3}$ をとる.

(3) 2数 $2x^2$, y^2 の相加平均・相乗平均の大小関係により

$$1 = 2x^2 + y^2 \geq 2\sqrt{2x^2 \cdot y^2} = 2\sqrt{2}|xy| \quad \text{ゆえに} \quad |xy| \leq \frac{1}{2\sqrt{2}}$$

したがって $-\frac{1}{2\sqrt{2}} \leq xy \leq \frac{1}{2\sqrt{2}}$

上式で等号が成立するとき $2x^2 = y^2$

よって $x = \pm \frac{1}{2}$, $y = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}$ (複号同順) のとき 最大値 $\frac{1}{2\sqrt{2}}$ をとる.

3 (1) $t = \cos \theta$ とすると

$$\cos 2\theta = 2 \cos^2 \theta - 1 = 2t^2 - 1$$

$$\begin{aligned} \cos 3\theta &= \cos 2\theta \cos \theta - \sin 2\theta \sin \theta \\ &= (2 \cos^2 \theta - 1) \cos \theta - 2 \sin^2 \theta \cos \theta \\ &= (2 \cos^2 \theta - 1) \cos \theta - 2(1 - \cos^2 \theta) \cos \theta \\ &= 4 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta = 4t^3 - 3t \end{aligned}$$

$$\text{よって } y = t + a(2t^2 - 1) + 4t^3 - 3t = 4t^3 + 2at^2 - 2t - a$$

(2) $f(t) = 4t^3 + 2at^2 - 2t - a$ とおくと

$$f'(t) = 12t^2 + 4at - 2$$

$f'\left(\frac{1}{2}\right) = 0$ は, $t = \frac{1}{2}$ で $f(t)$ が極値をとるための必要条件であるから

$$f'\left(\frac{1}{2}\right) = 2a + 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad a = -\frac{1}{2}$$

このとき $f'(t) = 12t^2 - 2t - 2 = 2(3t + 1)(2t - 1) \quad \dots (*)$

$t = \frac{1}{2}$ の前後で $f'(t)$ の符号が変化するから, $f(t)$ は, $t = \frac{1}{2}$ で極値をとる.

$$\text{よって} \quad a = -\frac{1}{2}$$

(3) $t = \cos \theta, \frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \pi$ より $-1 \leq t \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$

(*) より, $f(t)$ の増減表は次のようになる.

t	-1	...	$-\frac{1}{3}$...	$\frac{1}{2}$...	$\frac{1}{\sqrt{2}}$
$f'(t)$		+	0	-	0	+	
$f(t)$	$-\frac{5}{2}$	↗	$\frac{49}{54}$	↘	$-\frac{1}{4}$	↗	0

よって $t = -\frac{1}{3}$ のとき 最大値 $\frac{49}{54}$

$t = -1$ のとき 最小値 $-\frac{5}{2}$

4 (1) $h(x) = 1 - (1-x)e^x$ とおくと $h'(x) = xe^x$

x	...	0	...
$h'(x)$	-	0	+
$h(x)$	↘	0	↗

ゆえに $h(x) \geq 0$ すなわち $(1-x)e^x \leq 1$

上式で等号が成立するとき $x = 0$

(2) $g(x) = (2-x)e^x - x$ より $g'(x) = (1-x)e^x - 1 = -h(x) \leq 0$

$$g(1) = e - 1 > 0, \quad g(2) = -2 < 0$$

$g(x)$ は、単調減少関数であるから

$$g(\alpha) = 0, \quad 1 < \alpha < 2$$

を満たす実数 α がただ一つ存在する.

(3) (2) の結果から $g(\alpha) = 0$

$$(2-\alpha)e^\alpha - \alpha = 0 \quad \text{ゆえに} \quad e^\alpha = \frac{\alpha}{2-\alpha} \quad \dots \textcircled{1}$$

$f(x) = \frac{x^2}{e^x - x}$ を微分すると

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{2x(e^x - x) - x^2(e^x - 1)}{(e^x - x)^2} \\ &= \frac{x\{(2-x)e^x - x\}}{(e^x - x)^2} = \frac{xg(x)}{(e^x - x)^2} \end{aligned}$$

$f'(x) = 0$ とすると $x = 0, \alpha$

(2) の結果により, $f(x)$ の増減表は次のようになる.

x	...	0	...	α	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	↘	極小	↗	極大	↘

よって, $f(x)$ の極大値は, ①により

$$f(\alpha) = \frac{\alpha^2}{e^\alpha - \alpha} = \frac{\alpha^2}{\frac{\alpha}{2-\alpha} - \alpha} = \frac{\alpha^2(2-\alpha)}{\alpha - \alpha(2-\alpha)} = \frac{\alpha(2-\alpha)}{\alpha-1}$$

5 (1) $\overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$, $\overrightarrow{OC} = s\vec{a} + t\vec{b}$ について, $\overrightarrow{AB} \perp \overrightarrow{OC}$ であるから

$$\begin{aligned} (\vec{b} - \vec{a}) \cdot (s\vec{a} + t\vec{b}) &= (\vec{a} \cdot \vec{b} - |\vec{a}|^2)s + (|\vec{b}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b})t \\ &= (5 - 3^2)s + (2^2 - 5)t = 0 \end{aligned}$$

よって $t = -4s$

(2) (1) の結果から $\overrightarrow{OC} = s(\vec{a} - 4\vec{b})$, M は OA の中点より $\overrightarrow{OM} = \frac{1}{2}\vec{a}$

$$\overrightarrow{MC} = s(\vec{a} - 4\vec{b}) - \frac{1}{2}\vec{a} = \left(s - \frac{1}{2}\right)\vec{a} - 4s\vec{b}$$

$$\overrightarrow{MB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OM} = \vec{b} - \frac{1}{2}\vec{a}$$

3点 M, B, C が同一直線上にあるから, $\overrightarrow{MC} = k\overrightarrow{MB}$ より

$$\left(s - \frac{1}{2}\right)\vec{a} - 4s\vec{b} = k\left(\vec{b} - \frac{1}{2}\vec{a}\right)$$

ゆえに $s - \frac{1}{2} = -\frac{1}{2}k$, $-4s = k$

上の2式から k を消去すると $s - \frac{1}{2} = 2s$ これを解いて $s = -\frac{1}{2}$

よって $\overrightarrow{OC} = -\frac{1}{2}(\vec{a} - 4\vec{b}) = -\frac{1}{2}\vec{a} + 2\vec{b}$

(3) (2) の結果から

$$\overrightarrow{OC} = \frac{3}{2} \cdot \frac{-\vec{a} + 4\vec{b}}{4-1}$$

ゆえに $\overrightarrow{ON} = \frac{-\vec{a} + 4\vec{b}}{4-1}$

したがって, N は AB を 4:1 に外分する.

すなわち, B は AN を 3:1 に内分する.

よって $AB : BN = 3 : 1$

